

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0170503858, 株式会社フロイデプランニング).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JieyosyoCd=0170503858-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JieyosyoCd=0170503858-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に、安全・安心・快適な生活を提供できるように、当事業所は施設内バリアフリーで全室床暖房を設置している。また、季節ごとに行事を行っており、大型行事であるなつまつりやクリスマス会にはご家族様や町内の方々にも案内を送り、地域ボランティアの方々により歌や楽器の演奏会を行って頂くなど交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市南区藤野の閑静な住宅地に位置した、法人の広い敷地内にある2階建てで、1階が高齢者専用賃貸住宅で、2階にある1ユニットのグループホームである。近隣には、公園や幼稚園・学校、ホームセンターやファミリーレストランなどがあり、利便性のいい地区である。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (e.g., 該当するものに○印), and Achievement Details (e.g., 1 ほぼ全ての利用者が).

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳・自立・自由を事業所の理念とし、入居者様一人一人の人格を尊重した生活が送れるようプランを考え、更に、全職員が理念について理解したサービスを心掛けている。	理念は事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載している。全職員で理念に沿ったケアを提供できるよう、共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	輪投げ大会や子供みこし・町内の祭りなど、町内行事に出来るだけ参加させて頂いている。また、ホームでの夏祭りやクリスマス会などの行事では、案内を町内の方々に出し、地域ボランティアの方々が歌や楽器演奏を披露してくださっている。	地域のお茶会やお祭りなどの行事には、積極的に参加し交流しており、近所に古くからあるおやき屋でおやきを食べ談笑することもある。事業所合同で主催する夏祭りは盛大で、地域の方が多数来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法についての質問が運営推進委員会などでよくあり、話し合いを行っている。また、認知症に関わる事であればいつでも相談や質問をして下さいと伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度毎回テーマを設定し開催しており、町内の方・御家族様・地域包括支援センターの方を交え、ホーム内であった事項の報告を行ったり、町内行事などの案内を受けたりと情報交換を実施している。	会議は、同法人が運営している隣接のGHと合同で定期的に行っている。事業所からの報告があり、参加者から意見や質問を受け、話し合いが行われ、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に隣接したグループホームと合同で開催しているが、議事録も一緒なため、事業所ごとのわかり易い工夫と家族の参加を増やすことを検討して実施することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当とは、非常時などにはすぐに連絡をとれるように常に情報交換を行っている。	代表者が、市や区を頻繁に訪問して相談、情報交換を行ったり、運営推進会議で包括職員にアドバイスをもらったりして連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り・カンファレンス等でどんな行為が拘束になるのかを日々の事例から話し合い、全職員の周知・指導に努めている。	日頃から、身体拘束をしないケアについて検討し、会議の場でも勉強会をして学び、全職員が理解を深め、共有して実践につなげるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や会議、資格習得時に学んだ事を、申送りやカンファレンス時に話し合ったり、報告書や研修資料などで全職員には理解してもらい虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議やカンファレンスにて利用者様の権利についての話し合いを行い、自立支援を促す為の支援に協力していただけるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者様の御家族様が同席した状態で契約書の読み合わせを行い、時間をかけて1つずつ理解・納得して頂いた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様が来訪された際に要望を伺い、申し送りやカンファレンス等で話し合い、可能な範囲での実行に移している。又、苦情や疑問などはすぐに管理者から代表者に報告し、迅速な対応に努めている。	白樺通信と代表者の報告を作成して、毎月家族へ送付している。また、事業所主催の夏祭りのアンケートを行ったり、来所された際には意見を聞いて、職員で話し合い、運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	総合カンファレンスで職員が代表者へ直接意見を伝える場を設けている。また、個々に代表者との個人面談を実施している。	カンファレンスや個人面談で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、代表者が頻繁に事業所を訪れるので、よく話し合うことが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを公示し、ステップへの要件を明確にすることで向上心を持って働ける様取り組んでいる。給与ベースアップを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が資格を取る際や研修に参加する時は、シフト調整等の配慮を行っている。当社独自の資格支援制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	区や市の管理者会議に参加し、活動内容の情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のホーム見学を通して生活のイメージをつかんで頂き、生活を送る際の質問や不安などを本人様や御家族様から十分に聞き、安心して頂ける様に説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容を細かく説明し、又、グループホームとして入居者に出来る事・出来ない事も細かく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や御家族様の要望を聞き、それについて話し合い柔軟な対応が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念である「尊厳・自立・自由」を守り、職員は全入居者様としっかり関わりを持ち、自立支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで行う行事などには御家族様にも参加して頂いたり、相談や提案を行い、共に入居者様を支えていけるように留意している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様には近況報告として毎月通信を送らせて頂いている。又、外出行事も大切にしており、馴染みの地域との関わりにも努めている。	友人や知人が訪れることもあり、家族の協力を得て、馴染みの人や場所とのかかわりを継続して支援できるよう努めている。また、利用者が住んでいた家には職員が同行するなどして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝の体操やレクリエーションなどで入居者様同士の交流の場を設けている。又、外出等の際は入居者様同士の関係を考慮した上で座席を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や転居等、ホームの利用が終了した方や、御家族様からの相談があったらいつでも連絡下さいという事を伝えており、連絡があった際には出来る限りの対応を心掛けている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望に近づけられるよう努め、日々の申し送りやカンファレンス等で話し合いを行っている。	担当者が日々のかかわりの中で意向の把握に努め、常に話し合い、職員間で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や御家族様・本人様からお話をお聞きし、入居者様の生活歴や暮らし方を全職員が常に把握して職務にあたるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の見守りや本人様からの訴え等から得た情報は日々の介護記録に詳細に記載する様にしており、職員同士が情報を共有することで変化などの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の担当者が中心となり検討するべき課題を見つけ、御家族様や医師よりアドバイスを受け、現状に最適な計画が作成出来る様に努めている。	本人・家族の意向をもとに医療機関のアドバイスも受けて、担当者が中心となりカンファレンスで検討して、安心して暮らすことが出来るような計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子は個々の記録に毎日残しており、連絡ノートや朝夕2回の申し送り等で介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様や本人様の希望による通院介助や外気浴、おやつの買い物等、多様なニーズに応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で行う行事に可能な限り参加し、地域間交流に努めている。又、運営推進会議を通し、地域包括支援センターや町内の方々との意見交換を行ったり、年2回の避難訓練にて消防の方々から評価や指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医療機関との連携を努め、週1度の訪問看護や往診等を実施している。又、外部の病院にかかりつけ医がいる入居者様には通院介助を行っている。	複数の医療機関と連携していて、24時間対応、2週間に1度協力医の訪問診療がある。その他のかかりつけ医の受診には、職員が同行し適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で気付いた事や異変が感じられたことは、週1度の訪問看護時や医師に報告し、急変などの緊急時には訪問医療機関の緊急連絡先に連絡し都度指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期の通院介助時には、入居者様の日々の様子を報告し、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明は行っているが、実際に重度化した際にも、医師・御家族様・本人様・職員を交え今後についての説明も受け、話し合いを実施している。	重度化した場合の対応については入居時から説明を行い、必要に応じて、本人・家族等・医療機関と話し合い、方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、目につきやすい場所に掲示している。又、普通救命講習の講師資格を取得した役職者による救命講習が出来る体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。又、町内会の方より、災害時は会館を避難場所に利用しても良いと許可を頂いている。	災害対策として備蓄・備品の準備、連絡網の整備、避難場所の確認をしており、事業所合同で定期的に避難訓練を行い災害対策を行っている。また、地域の避難場所として、隣接した事業所が指定されている。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の希望や性格などにより親しみのある言葉掛けを行う場合もあるが、基本的には敬語であり、言葉掛けを行う際は、尊厳やプライバシーを損ねないことを第一に心掛けている。	理念にある尊厳をもとに、個々に合わせて、プライバシーを損ねないように配慮して言葉がけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の性格や趣向・レベルに合わせた働き掛けを行い、入居者様の事故決定力を引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	強制は決してせず、入居者様のその時の気持ちや状態を最優先とし、自分のペースで物事を行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1度の訪問理美容で、本人様の希望をお聞きし散髪して頂いている。又、毎朝の更衣の際には、本人様に衣類を選んで頂ける様に支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理は基本的には職員が行うが、もやしのひげ取り・餃子を包む・芋を潰す等の簡単な作業や後片付けを入居者様に手伝って頂いている。	利用者と職員と一緒に料理の下準備や後片付けをしたり、酢飯作りやお正月料理の味付けをしてもらうこともある。菜園で収穫した野菜を料理に使ったり、数か月に1度の白樺寿司は好評で食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は日常的に記録は残しており、拒否が見られる方には職員を代える・時間を空ける等して支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに加え、夕食後は義歯をポリドントで消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様1人1人の排泄誘導時間を決めており、それに合わせて介助を行っている。自立にて排泄が困難な方には腹部マッサージを実施している。	排泄チェック表をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握して、自尊心を傷つけないように配慮しながら排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様には。都度看護師や医師に相談し指示を仰いでいる。又、午前中には便秘予防も兼ね体操を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	各入居者様の入浴日は決まっているが、本人様からの希望や入浴時間などは柔軟に対応出来る様に努めている。	週2～3回の入浴となっているが、希望に応じて時間など臨機応変にしている。身体状況によって湯量を調節するなど個々に沿った対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯にレクリエーションを行ったり、不眠時には話の傾聴を行うなどして、夜間帯の良眠が促せるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報は個別に保管している。変更時の際には連絡ノート・申し送り等で情報の周知に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂いたり食器を下膳して頂く等の役割を持って頂いている。又、運動やレクレーションを行うなどして何もすることが無い時間をなるべく減らす様にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は外気浴の声掛けを行っている。行事の計画を立てて鯉のぼりや紅葉を観にドライブなども実施している。	戸外に出かけられるよう、外気浴や散歩の声掛けをしたり、買い物へ同行するなどの支援に努めている。外出行事では雪まつりや定山溪温泉街の鯉のぼり、さっぽろ湖紅葉ドライブを楽しんだり、選挙があれば投票などの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理できる入居者様には、御家族様との相談・許可を頂いた上で任せている。自己管理が困難な方は御家族様を相談し、希望・用途に応じて使用できるようにお預かりさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば電話をかけたり、手紙の代筆や投函するなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃と清潔には常に気を遣い、トイレには消臭剤を使用し匂いにも十分留意している。又、季節を感じられる様に壁などに手作りで季節ごとの飾りつけを実施している。	食堂には天窓があり、明るい雰囲気でご飯を楽しめるスペースになっている。壁を隔てた居間には、ソファが並べありゆっくり過ごす場所となっている。壁には利用者の手作り作品や季節のもの、書初めなども展示している。職員は共有空間の清潔には十分配慮するよう心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるように心掛けている。ホールにソファを置き、テレビを観たり気の合う入居者様同士話せるように家具の置き場所も考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様とご家族様と職員とで相談しながら家具やベッドの配置を決定している。	入口には職員手作りの表札があり、利用者には入居時に使い慣れた物を持参してもらい、相談しながら配置を決めて、安心して穏やかに、居心地よく暮らせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時や車椅子移動時に邪魔になつたり、事故が起こらないように通路には物を置かないようにしている。又、居室やトイレに表札を設置し、入居者様が認識しやすいように工夫している。		